

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

国民の意識転換で優れたリーダーが生まれる 中西 輝政 (京都大学大学院教授)

1. 伊藤博文しかり、明治の優れたリーダーたちは、いずれも、大震災が相次ぎ、外敵の侵略で国家滅亡を目の前にした国民がその幕末の危機をともに乗り越えようと、覚悟を決めて新しい時代に飛び込む中から生まれてきたのである。そういう時代の空気の中で生きてきた明治の人は、常に毅然とされ、いまの日本人とは違って、肝が据わった凛とした気風を漂わせていた。危機が国民を鍛えるのである。
2. 優れたリーダーというのは、そのように国民の意識が転換してからでなければ出てこない。リーダーを生み出す土壌である国民自体が変わらなければ、いくら求めても出てこないことを自覚すべきである。戦後の高度成長を経て豊かになった日本人は、いつしか「カネさえ、モノさえあれば幸せになる」と錯覚してしまっていた。何事も他人に頼ろうとする依存体質が染みついてしまった。
3. こうした日本という国の危うさを、この度の震災によって、自分たちが依って立つはずのものが一瞬のうちに崩壊してしまったことで、強く意識させられたはずである。我々はここで謙虚に頭を垂れ、己の小ささをもう一度見つめ直さなければならない。
(参考:「致知」2011年6月号)

経営者のための危機管理

海外輸送船の日本外し

1. 復興の重い足かせとなる福島第一原発事故。収束の見通しは立たず、その余波は拡大を続けている。「首都圏は放射能汚染で近づけない」。そんな風評が世界の「日本外し」を加速させている。「穀物輸入船が首都圏の港に入ってこない。現場はパニック状態だ」。総合商社の輸送部門担当者は、今、口を揃えてそう言う。
2. 海外の船会社、とりわけドイツを中心として欧州系が今、首都圏近郊の海上を通ると放射能を浴びると考え、輸送を拒んだり、遠回りする分の運賃を求めるようになってきている。輸送船の日本外しが長期化し、原料の買い付け価格も上がれば、「最終製品に転嫁される恐れもある」(原料メーカー)と危惧する声もある。

(参考:「週刊エコノミスト」:2011年5月3日・10日号)

海外事情

米欧に挑戦する「BRICS」

1. ブラジル、ロシア、インド、中国の四新興国で構成する「BRICS」に今年4月、南アフリカが正式メンバーとして加わり、新生「BRICS」が発足した。五カ国首脳は、アメリカのドル覇権に断固対抗する方針で一致し、国債金融改革で米政府に挑戦する姿勢だ。四大新興国の寄せ集めだったBRICSは、今や共通利害で結ばれた重要な国際機関に変貌しつつある。
2. 五カ国は現在、世界のGDP合計の五分の一を占め、人口では43%に達する。4月中旬の首脳会議では、「G7(先進七カ国)」を念頭に、「G5」という言葉が頻繁に使われた。

(参考:「選択」2011年5月号)

古典に学ぶ

さらに飛躍するために

「吾 謂えらく、大弟但に武略あるのみと。今に至って 学識 英博なり。復に呉下の阿蒙に非ざるなり」
(訳)「呉下の阿蒙」とは、「いつまでたっても変わりばえない人物」となります。「私は呉下の阿蒙でございまして」などと、自分を謙遜して言うことに使われてきました。わかりやすく訳しますと、「あなたは戦いに強いだけの人物だと思っていた。ところが今、話し合ってみると、学識も素晴らしいではないか。もはや昔の呂蒙君ではなくなったなあ」というのです。

(参考:守屋 洋「リーダーのための中国古典」:日経ビジネス人文庫)